

<白金標準、WPIC、2025年も22トンの供給不足予想・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第3四半期 PGM 需給報告では、2025年の需給バランスは前回の26トンから4トン改善される22トンの供給不足を示唆し、3年連続の供給不足が確実的になっている。また2026年の初回の需給予測では、0.6トンの供給過剰を示唆している。ただ過剰予想は貿易摩擦の緩和を想定したものであり、現在の緊張が続く場合は、2026年もプラチナの供給が需要に追いつかない可能性が高いと記載し、緩和が崩れた場合は9トンの供給不足へ移行する可能性が示されている。特に地上在庫が2025年の99トンから2026年は100トンとなるなど、価格に大きなインパクトを与える増加も見られない事から、2026年も供給不足は継続する可能性が高いと思われます。

特に白金標準先物の週足では、5波動を示すエリオット波動論で8250円の高値が3波動を終え、現在は4波動の修正＆保合いの動きを形成している状況であり、今後目先の7660円を上回った場合に、最後の上昇波動である5波動へ移行し、目先の高値である8250円を上回る可能性が高まると思える。その意味合いからも、強気スタンスは維持しながら2026年1月～3月に掛けてアニバーサリーの動きで8250円超えに備えるのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の週足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルは切り下げだし、RCIでは短期が下げながら、長期は切り下げている。特に週足が指數平滑移動平均線のレンジに入り、抵抗を強めるのか見極めの動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,810,000 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引に

についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間: 平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あつせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター

<https://www.nisshokyo.or.jp>